
隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 382 号

—環境・農業・食べ物など情報の交流誌—

2015.10.01 (木) 発行 山崎農業研究所&編集同人

<キーワード>

環境・農業・健康・食べ物などの情報提供、高齢者と若者、農村と都市の
交流ミニコミ誌。山崎農業研究所&『電子耕』編集同人が編集・発行。

<http://www.yamazaki-i.org>

*****発行部数 1,015 部*****

□ 目次 □-----

<巻頭言> 安全保障関連法の無効、停止、憲法違反の運動へ 小泉浩郎

<新刊紹介>

山安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

<編集後記> あたらしい民主主義のかたち

<巻頭言> 安全保障関連法の無効、停止、憲法違反の運動へ

2015年9月17日午後4時34分、参院平和安全法制特別委員会の委員長が議長席に着く。与党の屈強な若手議員17人が議長席に「人間かまくら」を築く。呼応して野党議員が駆け寄る。議長の持つ議事進行の紙片の奪い合いである。人垣にダイブする野党議員、それを阻止する与党議員の鉄拳……。選良が暴徒化し肉弾戦が繰り広げられる。怒号の中、与党議員の手信号が議長席から委員席の伝達担当に伝えられる。ほとんどの議員が参戦中、空席の状態で起立採決される。数分間の出来事である。速記録には「発言する者多く、議場騒然、聴取不能」とだけある。

この仕組まれた強行採決戦術は、防衛大が恒例の肉弾戦「棒倒し」を参考にした。殴る、蹴る、投げる、絞めるなどは常套、だが一定のルールの中を進めるので「暴力」でなく「武力」だという。防衛大出身の佐藤正久筆頭理事が指南役、同日早朝シミュレーションもしているという(9/18産経ニュース)。

野党の戦術を分析→同僚委員長が危ない→「人間かまくら」で集団的自衛権発動→抑止力にならず野党の参戦を促す→委員会ルールを無視した肉弾戦の展開→安倍首相はその様子を別室でテレビ観戦……。国民はさらに蚊帳の外であ

る。

国民に選ばれた国会議員がこの体たらくである。国会は現状を読み、議論を戦わし、国民に夢を示すのが役割であろう。そこで「武力」が中心になっては、国の平和・安全を語る資格はない。

議会制民主主義を瓦解させた 9.17 は、憲法違反の象徴として記憶に留めていこう。民意を無視する国会は、当面相手にせず、9.17 の暴挙を胸に安全保障関連法の無効、停止、憲法違反の運動を草の根運動として展開し次期参院選へとつないで行こう。

9.17 から 10 日ほど過ぎた 27 日午後 6 時、国会議事堂前に行ってきた。街角にプラカードを持つ数人が立つだけ。高層ビルに囲まれたこの国会周辺は緑が多い。短い秋を惜しむようにすだくアオマツムシの甲高い声が周辺を覆い包む。国民に失望を与え、民意から乖離した国会（議事堂）は、むなしく小さく見えた。

小泉浩郎

山崎農業研究所所長

yamazaki@yamazaki-i.org

<新刊紹介>

安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

「学生時代から歩くことが好きだった」という著者が多摩川河口から源流までの歩き継ぎを思い立ったのは 70 歳のとき。岡本かの子が多摩川について書いた『川』には「水源は水晶を産し、水は白水晶や紫水晶から滲み出るものと思っていた…」とあるが、水源を自分の目で確かめたいと思ったのがきっかけだった。

川沿いに 1 日歩いたら電車などで帰る、そして次の機会には、前回の到着点から出発する。これが「歩き継ぎ」だ。平場はともかく、源流に近づくにつれ難所も相次いだ。河口から源流までは 140 キロほどだが、まわり道をしなくてはならない箇所も多く、多摩川から取水される玉川上水をはじめとした古い用水や歴史遺構、神社仏閣にも足をのぼし、最終的には 300 キロ以上歩いたとい

う。

わが国の水利用の歴史をみるかぎり水田開発が中心であった。ところが関東ローム台地や谷津が組み入った土地条件では、それとは異なる技術が必要とされる。台地開発の技術が従来の水田開発とどう異なるのか、水をめぐる技術がどのように伝承されたのか。現場の事例から見直したいと著者は思った。

多摩川を水源とする用水（上水）は数多い。本書で取り上げている用水（上水）は、二ヶ領用水、六郷用水、府中用水、玉川上水、野火止用水、青山上水、千川上水、三田上水など。玉川上水に先行してつくられた二ヶ領、六郷、府中用水と玉川上水との関係や玉川上水にまつわる秘密（施工期間の短さや取水位置の確定方法）、野火止用水開通の歴史的記述（「用水開通3年説）」についての自説の展開、千川上水、青山上水、三田上水といった今日ではかえりみられることの少なくなった上水の水路位置の推定や、それらがかつて果たした役割の考察など、興味深い記述が随所にみられる。

本書は、河川全域で見聞し、感じたことを記した「第Ⅰ部 多摩川源流を訪ねて」と、多摩川から取水された上水・用水について述べそれら相互の関連、人との関わり、社会の流れを見る「第Ⅱ部 武蔵野・江戸を潤した多摩川の上水・用水」からなる。

まえがきにある「水と土、人間万歳」「水は文化を運ぶ」といった言葉に込められているのは、上水・用水の開発にかかわった職人や技術者への尊敬の念、市井の人びとや農民たちの水とともにある暮らしへの共感であり、本書の基調をなす。多摩川・上水と人びととの関係について歴史的、技術的、文化的にと重層的に描いた本書は、自然と人間の関係を今日的な視点から総合的に捉えなおすうえで格好の書。

©安富六郎著『武蔵野・江戸を潤した多摩川——多摩川・上水徒歩思考』

<http://www.amazon.co.jp/dp/4540142631>

農山漁村文化協会

A5判・並製・199頁

ISBN-10: 4540142631

ISBN-13: 978-4540142635

1836円（税込み）

◎著者

安富六郎（やすとみ・ろくろう）

1932年、東京都生まれ。東京大学農学部卒業。東京農工大学名誉教授。山崎農業研究所前所長。農学博士。著書に『環境土地利用論』（農文協、1995年）、『身近な水の環境科学』（環境修復保全機構、2004年）、『農地工学』（共著、文永堂出版、2008年）、がある。

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

<お知らせ 1> 山崎農業研究所所報『耕 No.136』発行されました

山崎農業研究所所報『耕 No.136』が発行されました。

ご希望の方には雑誌を頒布いたします。

yamazaki@yamazaki-i.org

までご連絡ください。

《土と太陽と》（巻頭言）

誰のための被災地復興かを改めて問う◎渡邊 博

[第150回定例研究会] 自然災害を考える新たな視点

II 豪雨災害に備える自主防災力向上を目指した地域活動の展開◎重岡 徹

[第151回定例研究会] 「新基本計画」＝農政改革の車の両輪を問う

解題：農業生産現場から見た「食料・農業・農村基本計画」◎小泉浩郎

I 新「基本計画」と農政転換◎森島 賢

II EUの農政改革と農村◎市田知子

参加者の声—地域の土地と農を守る◎人見みゆ子／山崎繁雄／佐々木哲美

[特別寄稿]

・惨事便乗型資本主義の行方は何か？

——格差拡大、戦争経済、独裁ガバナンスの道をひた走る日本◎西川 潤

・都会人よ、田舎へ大移動を！◎長谷川 浩

〈連載〉“生きもの語り”の世界から(7)

<お知らせ 2> 山崎農研編「平成のマドンナ」シリーズ No.8 完成しました

山崎農研編集「平成のマドンナ」シリーズ No.8(B5 版・30 ページ) が完成しました。既発行分も含め、電子版あるいは冊子で頒布しています。送料込み 500 円です。ご希望の方は yamazaki@yamazaki-i.org までご連絡ください。

(新刊)

- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市
酪農・教育ファーム・レストラン 人見みろ子さん
(阿久津加居聞き書き)

(既刊)

- No.1 都市近郊に「オアシス牧場」を
埼玉県上尾市 榎本美津子さん (小井川敏子聞き書き)
- No.2 世羅高原のそよ風になりたい
広島県世羅町 井上幸枝さん (後由美子聞き書き)
- No.3 むらにまちにこどもたちにふるさとの味を伝えたい
鳥取県鳥取市 西山徳枝さん (小泉浩郎聞き書き)
- No.4 働きやすい作業環境の改善
徳島県 藍住地区のお母さん達 (小林徳子聞き書き)
- No.5 「奥久慈の味」から広がる出会い
茨城県大子町 齊藤キヌ子さん (臼井雅子聞き書き)
- No.6 デパートに進出した農村女性
栃木県宇都宮市 アグリランドシティショップ (阿久津加居聞き書き)
- No.7 貧しさに学びこころ豊かに生きる
群馬県嬭恋村 丸山みち子 (丸山みち子著)
- No.8 家族経営協定でいきいき人生にトライ
栃木県那須塩原市 人見みろ子さん (阿久津加居聞き書き)

<編集後記> あたらしい民主主義のかたち

2015年9月19日未明、安保関連法案が参議院本会議で可決された。

その数時間前までわたしは国会前にいた。国会正門前の道には機動隊の車両がびっしりと並び、歩道と車道のわずかなスペースは抗議の声をあげる人々で溢れていた。

本会議可決前の9月16日、横浜では地方公聴会が開かれた。しかしそれについての報告・審議は行なわれず、17日の委員会で与党議員による「人間かまくら」のなかで強行採決された。なりふりかまわぬ政府・与党、こうしたうごきに危機感をおぼえ「No!」の意思表示をする人の数は連日数万にのぼっていた。

ただし委員会における「採決」という言葉は正確ではない。会議録上は「……（発言する者多く、議場騒然、聴取不能）」となっている。また、「人間かまくら」をつくった与党議員は皆委員「外」だったという。そして、公聴会の結果の取り扱いも不当なままだ。

国会前ではさまざまスピーチを聞いた。慶應義塾大学の金子勝教授は「これはクーデターなのです！」と怒りの声を上げた。そして国会前の新しいうごきをつくりあげてきたSEALDsの学生たちと駆けつけた人々との間では「民主主義つてなんだ これだ」「ファシスト通すな」「野党がんばれ」といったコールの応答が繰り返された。

がしかし…。

とはいえ、わたしはそう落胆していない。数からいえば、こうなるのは99%見えていたから。問題はこれからどうするか、だと。「選挙行きましょうよ!」「賛成した議員を落としましょうよ!」とのメッセージがSEALDsからもあったし、国会前に集まった人々もそう思ったにちがいない。

想定内であることはほかにもある。たとえばSEALDsを批判する声は次第に大きくなっているし、共産党による連合政権の提案については実現不可能としたり顔の言説も聞こえてくる。

しかしSEALDsの中心メンバー奥田愛基さんの通う大学に「お前と家族を殺す」という殺人予告の手紙が届いたなどと聞くと、それは酷すぎると思うし、安部首相のポスターに落書きをした男性が逮捕されたなどというニュースを見ると、

過剰反応ではないかと首をかしげざるをえない。

党派に左右されない、ひとりひとりが立つ民主主義、日々の暮らしのなかで声をあげつづける民主主義、殺すことも・殺されることも拒否する民主主義、……。今回国会前で生まれたのは、この国のあたらしい民主主義のかたちではないか。もちろんだからといってすべて肯定する必要はない。しかしその道を歩もうとする人達を馬鹿にしたり、貶めたり、脅したりすること、そんなことだけは勘弁してほしいと心底思う。

2015年10月01日

山崎農業研究所会員・田口 均

yamazaki@yamazaki-i.org

山崎農業研究所編・発行／農山漁村文化協会発売

『自給再考——グローバリゼーションの次は何か』

(発売：2008/11 定価：1,575円)

http://shop.ruralnet.or.jp/b_no=01_4540082955/

たくさんのお書評・紹介記事をいただいています。感謝・感謝です。

◎辻信一さん (文化人類学者、ナマケモノ倶楽部世話人。明治学院大学教授)

グローバルの次は何? ～卒業するゼミ生諸君へ

<http://www.sloth.gr.jp/tsuji/library/column64.html>

◎戒谷徹也さん (大地を守る会)

ブログ：大地を守る会のエビちゃん日記 “あんしんはしんどい”

「自給率」の前に、「自給」の意味を

<http://www.daichi.or.jp/blog/ebichan/2008/12/16/>

◎吉田太郎さん (長野県農業大学校教授、執筆者)

キューバ有機農業ブログ 自給再考の本が出ました

http://pub.ne.jp/cubaorganic/?entry_id=1822182

◎関良基さん (拓殖大学政経学部)

ブログ：代替案 書評：『自給再考 — グローバリゼーションの次は何か』

<http://blog.goo.ne.jp/reforestation/e/cb22650fa39384bdd22b61440fa81fa0>

◎大内正伸さん (イラストレーター・ライター)

ブログ：神流アトリエ日記 (3) 「書評『自給再考』」

<http://sun.ap.teacup.com/applet/tamarin/20081204/archive>

◎ブログ：本に溺りたい グローバリゼーションの次は何か

<http://renqing.cocolog-nifty.com/bookjunkie/2009/01/post-841e.html>

◎森川辰夫さん

NPO 法人 農と人とくらし研究センター／資料情報

<http://www.rircl.jp/shiryo.htm>

◎日本農業新聞／書評

(2009/01/19 評者：日本農業新聞編集委員 山田優)

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎小谷敏さん (大妻女子大学)

日本海新聞コラム「潮流」／「自給」の方へ (2009/01/31)

<http://blog.goo.ne.jp/binbin1956/e/c895f6619b30ba7725e264b4daa75219>

◎白崎一裕さん ((株) 共に生きるために)

月刊とちぎV ネットボランティア情報 vol.158／しみん文庫

<http://yamazaki-i.org/>

(画面トップの「書評はこちらから」よりアクセス下さい)

◎塩見直紀さん (半農半X 研究所、執筆者)

ブログ：半農半Xという生き方～スローレボリューションでいこう！

立国集。

<http://plaza.rakuten.co.jp/simpleandmission/diary/200812270000/>

◎お願い「<読者の声>の投稿規定・メールの書き方」

1、件名 (見出し) を必ず書いて下さい。「はじめまして」は省略して、言いたいことを具体的に。

2、氏名・ハンドルネームは、文末ではなく始めのほうに。

3、1回1テーマ、10行位に。

4、ホームページを持っている人は、文末に URL を。

5、JIS X0208 規格外の文字 (機種依存文字) のチェックを。

<http://www.chem.sci.osaka-u.ac.jp/networks/check/jisx0208.html>

インターネットで使えない丸数字や半角カタカナ、括弧入り略号などは文字化けの原因です。

次回 383号の締め切りは10月13日、発行は10月15日の予定です。

<本誌記事の無断転載を禁じます>

隔週刊「農業文化マガジン『電子耕』」 第 382 号

最新号・バックナンバーの閲覧

<http://archive.mag2.com/0000014872/index.html>

<http://nazuna.com/tom/denshico.html>

購読申し込み／解除案内

<http://www.yamazaki-i.org>

2015.10.01（木）発行 山崎農業研究所&編集同人

<mailto:yamazaki@yamazaki-i.org>

***** ここまで『電子耕』 *****